



市報

こだいら

躍動をかたちに 進化するまち こだいら

こだいら 50年 小平市!

平成24年 (2012年)

平成24年 市制施行50周年

10/1

第1298号

発行：小平市 編集：企画政策部秘書広報課

〒187-8701 小平市小川町二丁目1333番地 ☎042(341)1211 (代表)

◇小平市ホームページ

◇電子メール

◇小平市携帯電話用ホームページ

市民総合体育館の臨時休館

体育館の設備修繕、プールの水入れ替えおよび清掃のため、臨時休館します。

臨時休館日 10月2日(火)

※1日(月)は通常の休館日のため、2日間連続して休館します。

問合せ 市民総合体育館 ☎042 (343) 1611



11月3日(土)は祝日のため、市役所(本庁)の土曜窓口はありません。



<http://www.city.kodaira.tokyo.jp>

info@city.kodaira.lg.jp

<http://www.city.kodaira.tokyo.jp/m/>



〈詳しくは、6・7面をご覧ください〉

笑顔だ、元気だ、50年!

10月21日(日) あかしあ通り



市制施行50周年

小平市民まつり

市制施行50周年にあたりまして、ひと言こあいたつを申し上げます。市民の皆様におかれましては、改めてこの50年の市政運営に関わること支援とご協力に衷心より感謝申し上げます。昭和37年(一九六二年)に7万人余りの人口を擁してのスタートでしたが、街の現状は公共施設などのインフラ整備に追われ人口増加に十分対応しきれない状況でした。これらの現象は小平市に限ったことではなく、当時の多摩地域全体に言えるものでした。人口減少社会に入った今日では、考えも及ばない状況でした。

市制施行当時は、東京オリンピックなどによる好景気で、年収は毎年上昇し、土地は必ず値上がりするといった神話さえ出来上がりました。日本中が上昇志向で、物質的な豊かさを享受していた時代でした。公民館、図書館や小・中学校が次々と建設され、また公共下水道の整備事業も始まり、若年層の人口の流入が顕著な時代でした。ゆえに街は活気に満ちあふれていました。そんな激動の時代を経て、今日の少子・超高齢社会に突入したのです。家庭には生活必需品が充足され、新たな需要も先細りし、国民の多くは地域コミュニティや生活環境などの生きがいを中心とした真の豊かさを追求するようになってきました。かつての大家族は核家族化し、さらに単身化・

孤立化に移行し、これらの現象は地域コミュニティの崩壊を引き起こしています。そんな中、東日本大震災が発生し、誰もが地域の絆の大切さを感じるようになった。防災のみならず、地域の絆はそれぞれの居場所を確保し、それぞれの役割を明確にし、互いの存在を確認し合い、助け合います。このことは、市民に引き過ぎた依存体質を生じさせ、行政と市民を対極的な関係にしてしまったのです。行政依存は、参加や自治を目指す行政運営とは対極の関係にあるものです。私は江戸時代の自治社会である「寄り合い」の理念を生かせないかと考えています。そのためには自治の権限や財源を移譲し、個々の意見が最大限に生かされる、真の責任ある住民自治の社会を目指したいと考えます。一人一役、すべての人々にはそれぞれの役割があります。担い手市民として積極的に小平市を支えていただきたいと思います。

小平市でも長い間、行

市制施行50周年を迎えて

小平市長 小林 正則



小平市もその実現に向けて、努力を重ねてまいり、評価すべきは評価し、見直すべきは見直し、この50年を節目に新たな50年を創造していくことが大切だと考えます。今日の繁栄を築いてこられた先人に感謝し、今後、真に豊かな社会の創造に向けて、決意とお願いを申し上げます。こあいたつとさせていただきます。